

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 教育学 ) Ph.D. (Doctor of Philosophy in Education)	氏名 (Candidate Name)	毛 月
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 自己抑制力を育成する「死の教育」学習プログラムの開発に関する研究 —小学校2年生に着目して—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	鈴木	由美子
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	児玉	真樹子
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	宮里	智恵
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	森永	康子
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、小学校2年生を対象として、死を教えることを通して自己抑制力を育成する「死の教育」を含む学習プログラムを開発し、それによって問題行動等の加害行動を抑制する可能性について検討したものである。</p> <p>論文の構成は、次の通りである。</p> <p>序章では、先行研究の検討から、本論文の研究目的を、「死の教育」学習プログラムを実施することで小学校2年生の加害行動などの問題行動の解決のための示唆を得ることであるとした。</p> <p>第1章では、日本における「死の教育」の現状と課題を検討し、課題として次の3点を明らかにした。第1に、日本人が死に対してタブー視していること、第2に、「死の教育」に関する専門的知識や技能を持っている教師は少なく、児童生徒に教える方法も十分開発されていないこと、第3に、「死の教育」として一般的に認められたプログラムや効果検証の方法が明らかになっていないことである。</p> <p>第2章では、現行の道徳科教科書の中で、死に関する内容を扱っている教材内容の特徴を、小学校低学年、中学年、高学年それぞれで検討し、以下の2点を明らかにした。第1に、死に関する内容を扱った教材は対象によって3種類の教材に分けられること、第2に、学年段階ごとに取り上げる領域や教材内容に特徴があることである。</p> <p>第3章では、小学校2年生の死に対する考えや感情の特徴について、以下の2点を明らかにした。第1に、小学校2年生は、死について感情的に理解しており、この感情的な思いが、死の原因を考え、死に至らないために何ができるか考えることに繋がること、第2に、死の原因を理解することが、死に至らしめる行動の抑制に繋がる可能性があることである。</p> <p>第4章では、「死の教育」学習プログラムを開発・実践、効果検証し、以下の2点を明らかにした。第1に、死、思いやり、自己抑制に関する道徳科授業で構成された「死の教育」学習プログラムは、自分の良心に従って判断する思いを育むことに繋がる可能性があるということ、第2に、このプログラムで学習することを通して、加害行動を抑えるための具体的な方法を考えることができることである。</p>			

本論文は、次の4点で高く評価できる。

1. 現行の道徳科教科書に含まれている死に関する教材内容の特徴を、学年段階ごとに初めて明らかにしたことである。これは、一般的な死の教育カリキュラムの開発に資するものである。

2. 小学校2年生は死について感情的に理解する傾向があることを明らかにし、児童の感情を揺さぶるような教材内容や授業方法の必要性を示すことで、これまで課題であった死の教育の具体的な方法を新たに提案したことである。

3. 死の原因を考えさせることが、加害抑制の力を育成することに繋がる可能性を示したことである。従来の研究においては、小学校2年生では恐怖の感情が強いことが指摘されていたが、本論ではそれが恐怖の感情であったとしても、死の原因を考えさせることで、死を防ぐために自分にも何かできるといったポジティブな考え方に繋がる可能性が新たに示された。

4. 死を取り上げた道徳科授業を他の複数の授業と組み合わせる「死の教育」学習プログラムを通して、加害行動を抑制する力を育む可能性を示したことである。これにより、問題行動の予防に道徳科授業が貢献する可能性が新たに示された。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 12月 25日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)